

科学技術外交のあり方に関する有識者懇談会：報告書のポイント

参考資料5-1

科学技術イノベーションの戦略的
国際展開に向けた検討会（第1回）
平成27年9月4日（金）

1 科学技術外交の戦略的方向性

(1) 科学技術外交の意義と目的

- －パワーバランスの変化、グローバル化に伴う脅威の高まりなど
- －国家安全保障戦略（技術力の重要性及び外交への積極的活用）
- －科学技術外交に関するこれまでの検討と取組

→ 科学技術外交を「日本外交の柱の一つに」

(2) 科学技術外交の戦略的アプローチ

- －「科学技術のための外交」と「外交のための科学技術」
「外交のための科学技術」実施に戦略的取組と基盤強化が必要
- －外交戦略の主要目標に沿った科学技術外交
「平和のための科学技術外交」と「繁栄のための科学技術外交」
- －国境を越える科学技術の特性の活用
科学技術を活用した対話・信頼関係の構築
- －外交政策判断のベースとしての科学的知見の重要性
特に、宇宙、北極、深海、サイバー等は、科学技術のフロンティア。
専門的知見を活用可能。

2 科学技術外交に期待される方向性と具体策

(1) グローバル課題への対応と外交機会の活用

- －「科学技術イノベーションを通じてグローバルな諸課題の解決を主導し、望ましい国際環境の実現をはかる」との外交姿勢を確立。
- －我が国が指導力を発揮すべき課題を特定する仕組みを構築。
- －特定された課題を外交アジェンダとして国際社会に提示し、国際的取組を主導。

(2) パートナー諸国や新興国等との協力関係強化

- －外交上重要性が高いパートナー諸国との戦略的な共同研究開発を推進。
- －日本企業の海外展開支援とともに、新興国等のイノベーション人材育成や科学技術イノベーションに関する政策立案能力向上を積極的に支援。
- －ODAとの連携・活用を通じた新興国・途上国との協力強化、イノベーションを重視した新興国やODA卒業国向けの戦略的共同プロジェクト立ち上げ。
- －人材育成協力（工学系大学支援など）を強化し、次世代のネットワークを構築。
- －科学技術人材を民間交流を通じた外交活動に活用。

3 科学技術外交の効果的推進に向けた基盤強化・人材育成

(1) 外交政策の立案・実施における科学的知見の活用強化

- －外務大臣科学技術顧問を試行的に設置する。
- －関係府省・機関・学識経験者・産業界との連携強化のためのネットワークを作る。
- －在外公館の科学技術面での機能強化を図る。

(2) 科学技術外交を支える人材の育成

- －中堅・若手研究者を外交政策の立案に参画させる（外務省内で勤務、科学技術顧問の補佐、国際機関への送りこみ）。

(3) 対外発信・ネットワークの強化

- －科学技術外交の基本姿勢を国際社会に対して積極的に発信する。
- －知的交流を推進し、科学技術外交ネットワークを強化する。
- －科学者派遣や内外の展示施設・機関（例：ジャパン・ハウス）との連携を図り、我が国の科学技術の対外発信を強化する。

① 積極的平和外交の重要な柱として活用

地域及び国際社会の平和と繁栄の実現に科学技術を積極的に活用する

② 経済外交への活用

新興国との協力によりイノベーションを進め、双方の経済成長につなげる（日本企業の海外展開も支援）など

③ 地球儀俯瞰外交

パートナー諸国等と戦略的にプライオリティをつけつつ連携し、科学技術外交を実効的に推進するなど

④ パブリック・ディプロマシー

科学技術先進国としてのブランド・イメージを定着させ、「ソフト・パワー」として科学技術外交を活用する